

令和5年度 第4回とみやわくわくミーティング 実施報告書

テ ー マ	我がまちの地域福祉を考えよう ～みんなで地域を守り育み支え合うまちづくり～
日 時	令和6年1月29日(月) 15:00～17:00
場 所	成田公民館 第3研修室、会議室
座 長	宮城大学 事業構想学群 准教授 佐々木 秀之 氏
参 加 者	一般参加 14名 宮城大学学生 3名 富谷市 6名(市長、総務部長、保健福祉部長、長寿福祉課長、長寿福祉課2名、 市民協働課長、市民協働課3名) 傍聴者 2名

<次第>

1. 開会

2. 挨拶 富谷市長 若生 裕俊

皆さんこんにちは。本日は令和5年度第4回とみやわくわくミーティングにご参加いただきましてありがとうございます。とみやわくわくミーティングに参加したことある方はいらっしゃいますか。皆さん初めてですね。このとみやわくわくミーティングは、毎回テーマごとに市民の皆様にご参加をいただき、ご意見をいただいて市民の皆様の声を直接市政に反映させるために開催をしています。今回は「我がまちの地域福祉を考えよう」というテーマで開催をするにあたりまして、いつもは一般の市民の皆様幅広くご参加いただいておりますが、今日はこれからの地域福祉を考えるにあたって次の時代を担う若い富谷高校の皆さんにご参加いただきました。ご参加いただけて大変嬉しく思います。改めて心から感謝申し上げます。そして参加を呼びかけるにあたりましてご尽力いただきました塗田先生、本当にありがとうございます。

富谷高校の皆さんからはこれまでもT-timeなど毎年色々な課題研究で発表会の時に様々な意見をいただいてその意見を市政に反映させていただいているわけですが、今日は地域福祉の在り方ということでテーマを絞った中でご意見をいただきたいと思っております。

富谷は平均年齢が若い、年少人口割合が東北でも高いということで若いまちと言われておりますが、そういった富谷でも高齢化率が約22%です。高齢化社会に突入した中で地域福祉のあり方というのはこれから大事な課題になってくるかと思っております。そういう意味では今日皆さんの意見をいただけることが大変楽しみであり、期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。そしてこのとみやわくわくミーティング、佐々木先生には毎回座長をお務めいただいております。また、宮城大学の学生の皆さんにはアシスタントをお務めいただきます。限られた時間ではございますけれども、皆さんの貴重なご意見をいただければと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

3. 座長紹介、市出席者紹介

4. 担当課(長寿福祉課)より情報提供

皆さんこんにちは。長寿福祉課の會津と申します。私から、本日のミーティングテーマについて説明させていただきます。「我がまちの地域福祉を考える ～みんなで地域を守り育み 支え合うまちづくり～」と題しました資料の1ページ目をご覧ください。「地域福祉について」とあります。この「福祉」という言葉、ここにお越しの皆さんは、当然に聞いたことがある言葉だと思っておりますが、改めて「福祉」について、資料を

抜粋して紹介していきます。

「福祉」とは、幸せという意味を持つ「福」の字と、幸いという意味を持つ「祉」が組み合わせられた言葉です。これは、特定の人のために、援助をするとか、支援するといった、何かを与えるということだけではなく、“全ての人”に向けられた“幸せ”を表していて、もっと分かりやすく表現すると、「みんなの普通の暮らしを幸せにする」ことが、福祉の大きな意味でもあります。「福祉」と聞いて思い浮かんでくるイメージが、皆さんそれぞれにあると思いますが、どれも間違いではなく、一つひとつが福祉の一面ということになります。今日は、この「福祉」という言葉に「地域」をつけた、「地域福祉」という言葉を知っていただき、皆さんで考えていただけたらと思います。この「地域福祉」、「地域に暮らす人たちの幸せ」つまりは、「誰もが安心して幸せに暮らせる地域」であるためには、地域で起きている困りごとを、「他人ごと」ではなく「自分のこと」として捉えて、そこに住む人たちが、お互いに協力できることを見つけて、助け合っていくという「地域共生社会」を目指していくことが大切だと言われています。富谷市では、行政だけがこの地域福祉に向けて取り組むのではなく、住民の皆さんや、地域で活動する団体や関係機関の皆さんと一緒に「みんなで地域を守り育み 支え合う まちづくり」を目指すために、「地域福祉計画」というものを策定しています。この地域福祉計画については、お手元にお配りしている緑色のパンフレットで紹介します。パンフレットを開いて見ていただきますと、基本目標として大きく4つに分けながら、実際にどのような取組をしていくのか、ということについて取り上げています。

基本目標1では、地域住民同士の助け合いや支え合いを進めていくために、福祉教育やボランティア人材の育成を進めるほか、自分らしく活躍できる場や仲間づくりの場の提供として生涯学習やレクリエーションの機会を通じた社会参加を推進することに触れています。基本目標2では、災害などの緊急時において対応できる地域力の向上を目指して、その基盤となる日頃からの地域交流の場や健康づくりの推進、地域福祉のリーダーの育成についての取組をあげています。基本目標3では、誰もが安心して生活できる環境の整備を課題として、生活の困窮や就労支援のほか、移動手段である交通問題などに取り組むほか、成年後見制度や生きることに悩みを抱えている人に対する取組など、個別のニーズに応じた支援を強化していくことを目指しています。基本目標4では、地域や事業所・団体・行政の連携による、相談窓口の充実と併せ、地域の方が、困りごとを気軽に相談できる体制づくりを目指しています。このように、「住み慣れた地域で安心して暮らしていける」ように、様々な分野から、「地域づくり」に取り組んでいるところです。地域福祉計画全体の説明でしたので、大きな話題になってしまいましたが、では、実際に地域に暮らす住民の皆さんにとって、「地域福祉」って何をすればいいのだろうか？というもっと身近なことについて触れていきます。

パンフレットでは最後のページ、資料では2ページ目になります。「地域福祉」を進めていくなかでの重要な視点は、「地域の中での住民同士の助け合いや支え合い」だと考えられています。どちらの資料にもイラストで示されていますが、隣近所や友人・知人との間での助け合いや支え合いを「互助(ごじょ)」、地域住民同士の支え合いの中でも、少し組織的であったり、制度化された取組のもの、例えばボランティア団体や町内会、事業所を通じた助け合いを「共助(きょうじょ)」と位置付けています。私たちを取り巻く社会情勢は、少子高齢化が進んでいることで、核家族や、一人暮らし世帯が増加しています。こういった事もあって、生活上の困りごとに対して、これまで機能してきた家族や家庭内の支え合いによる自己解決ができなくなっているケースが増え、結果、公的な福祉サービスでは対応しきれないという地域の課題が見えてきます。例えば、一人暮らしの高齢者や障がいのある方のゴミ出しや、電球の交換を頼める人がいないとか、買い物に行けても買ったものを持って歩けないといったことや、被害の自覚もなく必要のないものを購入させられてしまう悪質商法の被害のほか、見守りが必要な認知症高齢者の方、一人暮らしが寂しい、将来が不安だ、地域に上手く溶け込めないというような心の問題などの、孤立・孤独に対する課題など、誰もがい

つかは遭遇するかもしれない問題が地域の中にはあります。

こういった問題を他人事として終わらせずに、日常的なご近所づきあいの中で、それとなく支援が必要な人の見守りをしたり、話相手になったり、ちょっとした手助けをする、という個人でできることから、町内会活動や、お茶のみサロン・会食会といった地域ですでに取り組みられているボランティアや地域活動への参加といったことなども、先ほどお話しした「互助・共助」の取組の1つと言えます。そして、日常的なご近所づきあいの中で見つかった問題が、地域での助け合いの中で解決できないという場合には、専門機関や行政に“つなげる”ということがとても重要です。また、地域の中には、自分から「困っています」と言えない状態の人や、誰かに支援してもらうことを「迷惑だから」と隠してしまう人もいます。こういった見えにくい課題がそのまま取り残されてしまわないよう、地域の中で、様子がおかしいと気付ける仕組みづくりに参加することも地域支援活動の1つになります。例えば、趣味のサークルや、地域の行事などの交流の場は、参加者自身の生きがいがづくりや地域交流を目的としていることはもちろんですが、福祉の目線で見れば、参加者同士の様子の変化に気付ける、「見守り」としても機能しますし、参加者を通じて情報交換するなかで、新たな生活課題を発見することにもつながります。このように、地域福祉を進めていくためには、行政が提供するサービスだけではなく、地域に生活する住民の皆さんによる支え合いや見守りといった個人で取り組めることをはじめとする地域福祉活動が重要となっています。

最後に、資料の3ページをご覧ください。初めにお話ししました地域福祉計画を策定した当時に、住民アンケートを実施した一部を紹介しています。表を見ていただくと、「地域福祉」という言葉を聞いたことがある人は大勢いますが、内容までは知らなかったという割合が高くなっています。その一方で、地域の中での自主的な助け合いや支え合いが必要だと思っている人の割合がとても高くなっています。こういったことから、市では、地域福祉の理解を深めていくための研修会を開催するほか、学校や地域における福祉教育にも取り組みながら、将来の地域福祉の担い手を育成することにも力を入れているところです。これまでの説明を聞いて、実は「地域福祉」ってそんなに難しくないかも、何か自分にもできることがあるかもしれないと、これまでより少し身近に感じていただけたら嬉しく思います。時間の都合で、足早となってしまいましたが、ミーティングに向けての担当説明を終わります。この続きは、座長にお願いしたいと思います。佐々木先生、よろしくお願いたします。

5. ミーティングレクチャー（座長より）

今日は福祉計画ということになります。自治体の作成する計画には、色々なものがありますが、皆さんが教科書で学ぶものは、国レベルの計画が多いと思います。国が計画を作るものでも、実際に進めるのは市町村といったものが多いのが実情です。ただ、国でつくるとはいえ、例えば東北地方と関西や沖縄では、地域性が違いますよね。地域計画は地域に根ざした、あるいは地域ならではの計画を作っていく必要があるのです。先ほどは、富谷市が地域福祉計画を進めて行く上で、基本目標4つ掲げて、それぞれ方向性を定めて策定していきたいという話がありました。ただ、今聞いただけでは、理解できていない、あるいは自分事にならないと思います。補足しますと、2ページ目、自助、互助、共助、公助とありますが、ここがポイントになるかと思います。自助というのは自分で、自分たちでセルフケアをする場合で、互助は文字通り、互いに助け合う、そして、共助は共に助け合う、つまり地域活動などのボランティアや高校生なども含まれるわけです。そして、自助や公助で無理なものや、無理な場合は公助ということになるわけです。先ほどの、行政が支えるということにも、この4つが関わっています。皆さんがこれから発言するときには、自助、互助、共助、公助の、どの部分を発言したいのかということを意識持つと、皆さんの考えがすり合わさってくると思います。行政に何をしてほしいということだけではなく、自助、互助、共助でできることも考えていくといいと思います。一方で、地域福祉に関するイメージのアンケート結果から

も、実際には、市民の皆さんが良く理解しているわけではないこともデータから見れたと思います。

6.意見交換

○グループ1

まず一つ目の分からないこと・疑問点・気づきという点でまとめると、アンケートの部分で18歳以下の人に対して地域の支え合いの必要性などのアンケートがとられていなかったり、地域福祉は高齢者のものだけではないという意見が多くあり、地域福祉は全ての年齢の人が対象、学生全員が対象になって取り組むべき、する側もされる側もどちらも地域福祉の活動の対象に若い人がいるという意見が出ました。自分たちでできる活動はどんなものがあるかということで、まずこれまでどんな活動をしたことがあるか出し合いました。空き缶を集めて寄付したお金で車椅子を買うとか、着なくなった服を寄付するとか、皆何かしら地域福祉に関わるボランティア活動に取り組んだことはありましたが、それを若い世代は地域福祉活動をしたということを知っていないという気づきを得てそもそもの想像が地域福祉活動って難しいよねという感じにまとまりました。

最後に、今まで参加したことがある体験学習機会に触れて、ここに高校生は注目しまして、例えば福祉体験の対象となる高齢者の方に学校などに来ていただいて直接何が必要なのか、何をしてもらったら嬉しいのかということについて実際に話を聞く体験であったり、若い世代が参加するとは言っても堅苦しい講義や説明は難しいのかなという事で体を動かすレクリエーション体験であったり、そうした地域福祉活動を行うと若い世代も参加しやすいものになるのではないかという意見が出ました。あとは説明とか講義とかよりも現場で具体的にみんな楽しい活動ができると、最初に出た気づきの部分でする側もされる側も若い世代が地域福祉活動にもっと興味をもてるのではないかという意見にまとまりました。

○グループ2

私たちのチームでは富谷市で具体的にどんな福祉系の活動をやっているか分からない、現状どのような動きをしているか分からない、どこに注力しているのかが見えない、今住民の人たちは何を不安に思っているのかというのが見えていないという意見が出ました。そこで自分たちの考えの共有や、やってみたいことを聞いてみたところ、特徴的だなと思ったのが、子ども会というものが小さい頃あったと思うんですけど、ない地域も結構増えてきている。グループ内に富谷市と仙台市に住んでいる人がいたんですけど、子ども会の復活をしていったら地域の公助とか互助とかの活動も復活していくのではないかという意見がありました。また、高齢者が集まる会などもあると思うんですけど、そちらも必要になってくるんじゃないかという意見が出てきました。高校生などが地域の困りごと、困ってる人たちの目線に立つことがなかなか難しいのではないかというのがあるって、困っている人という高齢者、小さい子ども、妊婦さんなどが多いと思うんですけど、そういう人たちの目線にたつためのワークショップなどを行うことでその人たち目線でやれることとかが見つかるんじゃないかという意見が出ました。

3つ目の学習の場づくりですが、盲導犬を必要とされている方から話を聞くとか、災害時とか失業した場合とか自分事になって問題を考える場を作るとかということが大事なのではないかということが結論として出ました。自分事になってというのはどういうことかということ、例えば講演を聞いているだけだとなかなか理解度が低いのかなと思うので、自ら障がいがある方の生活の疑似体験だったり、このわくわくミーティングのような自分で考える場に参加したりすると、社会福祉、地域福祉の理解がもっと深くなるのではないかという結論になりました。

○グループ3

気になっていることや疑問、分かりにくかったところから話し始めました。気になっていることの内容としては資料の中にあった街かどカフェというものが何のためにどんなことをしているんだろう、高齢者の方が集まっているのは見たら分かるけれど何をしているんだろうとか、自分たちの学校内でのワークショップ、出前講義みたいなのは知っているけど、それ以外の活動とかはあまり知らなかったという意見がありました。あとは自助、共助、公助、三つのカテゴリーは学校の授業で習ったけど互助というのは今回初めて知ったという感想が出ました。他には大人にしか出来なさそうという印象があるという率直な意見もありました。分かりにくかったこととしては、「民生委員」とは何かというワードの分かりづらさや、見守り・支え合って抽象的な内容で書かれているが具体的にどんなことをやるんだろうとか、地域福祉計画というのを実際にこのような場じゃないと聞かない、これまで身近じゃなかったという意見が出ました。

自分たちにもできそう、やってみたい活動としては、学校の出前講座とかでの車椅子体験、障がいがある方の生活の疑似体験、あとは地域の清掃活動などが共助的な部分としては自分達でもできそうだなという意見が出ました。自分達よりも下の年齢層を対象にキャンプをして関係性を作ったり自助、互助の部分で雪かきの活動などをやっていこうという意見が出ました。

最後にどのような取組があればよいかという所では、例えば職業体験とか町内会の芋煮会、習字教室、昔遊びワークショップなどで自分たちの地域の大人の皆さん、異なる年齢層の人たちと交流をするといったところから地域福祉は繋がるのではないかという意見が出ました。あとは福祉活動はあまり見えてこないから、福祉活動を目的として行くのではなく、福祉活動でない目的で行ってそこで福祉活動について知ることのできるようなものにするとか、朝の交通安全活動、旗を振って交通整理をしてくれる人たちの夕方バージョンがあればいいんじゃないかという意見も出ました。

○座長

最初は意見を出せるかなと思っていましたが、案外充実した意見交換になりました。高校生の皆さんには、自信を持ってほしいと思います。市役所、行政においてもあんなほどな、と思ったことが多くあったと思います。ただ単に情報を知るのではなく、自分事として知ること、それによって、自助、互助、共助に繋がっていくというような議論だったと思います。そして、それぞれ具体的に意見も出してもらいました。どれかが実現できたらいいと思っていますし、今度は自分たちが主体的に行動することを考えていくということが次のステップに繋がって来るのかと思います。30分間のグループワークでしたが、これだけできるということが実感できたと思います。

7. 市長感想

ありがとうございました。とても貴重な意見を皆さんにいただきました。まずはそれぞれグループトークの発表において、宮城大学のお三方に分かりやすくまとめて発表していただきありがとうございました。改めて皆さんの意見出しの中で言われて確かになぜ18歳以上にしかアンケートを聞いていなかったんだろうということについて改めて気づかされました。次の世代の人たちの意見を聞くべきだなと改めて思いましたし、また日常的に皆さんが知らず知らず地域活動、地域福祉に関わっているのを初めて知ったという話を聞いてそこが繋がってなかったんだなとか、あとは子ども会の話も出ましたが、あれも地域活動なんですよ。先ほど「互助」という言葉を初めて聞いたという話がありましたけれども、互助というのはまさに地域の中でお互いに支え合う、助け合うというのが互助でございますのでそういう意味では地域というのがキーワードになってくるというのを皆さんそれぞれグループの中で色々な話合いができたんだなと思って

おります。

本当にそういう意味では一人ひとりご意見を聞いて地域福祉について何か難しく考えていたというのがたくさんありました。福祉とは難しく考えることではなく自分ができることをする。例えば富谷高校の隣に介護老人保健施設のリーブスさんがいますよね。ボランティア活動で傾聴ボランティアというものがありますが、例えば皆さんが学校が終わってから 30 分でも施設にお邪魔しておじいちゃんおばあちゃんの話聞いてくれるだけでもおじいちゃんおばあちゃんが元気になったりします。福祉は身近なところで支え合えることがたくさんあり、あまり難しく考えなくていいのかなと思います。今日少なくとも色々なことを皆さんに関心を持っていただいたと思うので、これからちょっとしたことを気かけながら自分に何ができるか考えてもらえればと思いますし、思ったことを行動に移してもらうことがすごく大事かなと思っております。地域福祉は結果的にはお互いさまで、皆さん今は若いけれども皆さんもだんだん年をとってきて、いつかは支える側から支えられる側になっていきます。自分が支えられるときのことも考えて何かしてあげられることはないかと思っていれば人の支えとなる大きなきっかけになるかなと思います。今日のわくわくミーティングとても参考になりましたので皆さんの意見をこれからの市政に生かしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

8.閉会
